

前回指摘事項について

盤洲干潟・富津干潟の特別域（案）

盤洲干潟は東京湾における最大の干潟であり（干潟面積 1400ha）、干潟上には規模の大きなアマモ場（藻場面積 104.1ha）が分布する。

盤洲干潟は、夏季を中心に発生する貧酸素水塊の影響を受けない水域である。また、魚介類による利用状況からみて、アサリ、バカガイの産卵場、成育場、魚類の産卵場としての価値が高いものと考えられる。

富津干潟は規模の大きな干潟であり（干潟面積 145.6ha）、干潟上には最大のアマモ場（藻場面積 116.9ha）が分布する。また、魚介類による利用状況からみて、バカガイの産卵場、成育場、魚類の産卵場としての価値が高いものと考えられる。

盤洲干潟（アマモ場を含む）及び富津干潟（アマモ場を含む）については、干潟及びアマモ場の範囲を特別域（案）とするが、貧酸素水塊の影響を受けない範囲で、産卵場等として重要である浅場を含む広めの範囲を設定するものとした。

盤洲干潟については、東京湾湾奥に発生する貧酸素水塊の影響を受ける水域にあるが、5m以浅の水域には貧酸素水塊の影響が及ばないことから、三番瀬と同様におおむね水深 5m 以浅の範囲を特別域（案）とする。

また、富津干潟は、貧酸素水塊の影響を受ける水域にはないことから、この水域を重要な産卵場、生育場として利用するバカガイ等の主要な生息域であるおおむね 10m 以浅の範囲を特別域（案）とした。

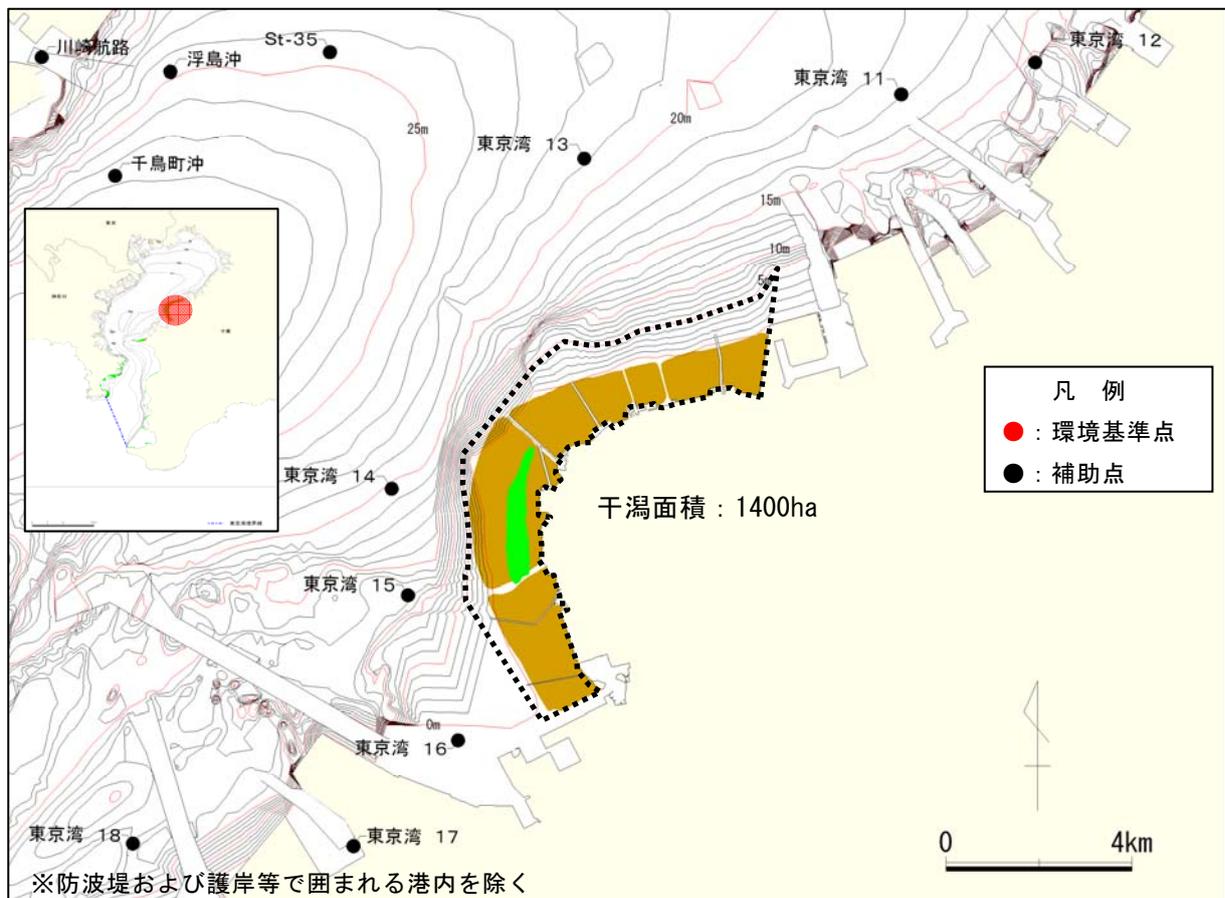


図-1 盤洲干潟の特別域（案）

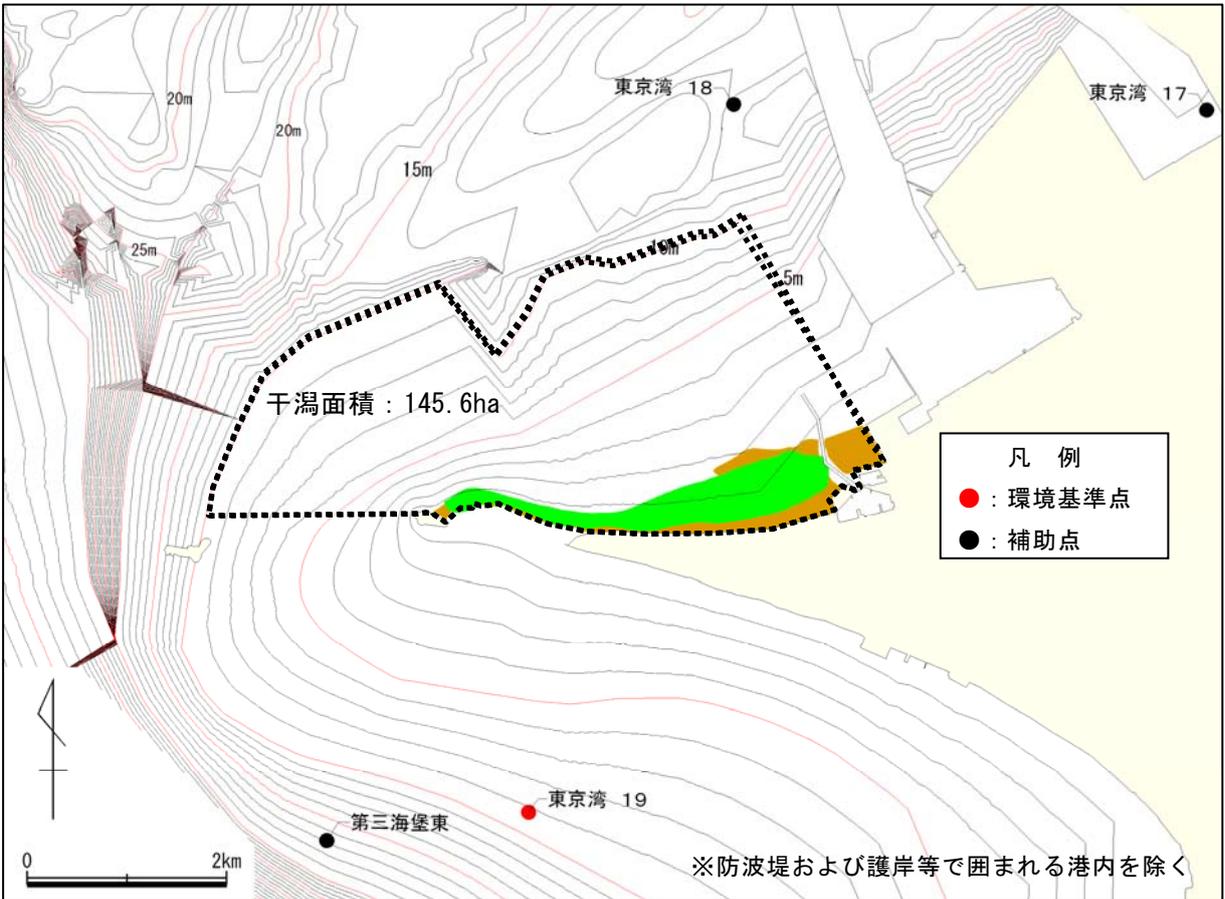


図-2 富津干潟の特別域 (案)